

平成 15 年度

静岡県立高等学校教員実務研修

研究報告書

「高等学校における朝読書の実態」

静岡県総合教育センター

教職研修部実務研修員

村松 裕子

目次

はじめに	P 1
調査の方法	P 1
本調査を通して分かったこと（概要）	
1 朝読書の様子	P 1
2 朝読書のねらいと成果	P 2
3 朝読書の課題と展望	P 3
アンケート集計結果及び分析	
1 朝読書の実施状況	P 4
2 朝読書の目的	P 5
3 朝読書を担当する組織	P 6
4 朝読書の指導方法	P 6
5 朝読書に対する生徒の姿勢	P 9
6 朝読書の成果	P 10
7 朝読書についての課題	P 12
8 朝読書の充実のために	P 12
まとめに代えて－「読書のしずおか」づくりを目標にして－	P 14
参考文献・参考資料	P 14
資料1 アンケート見本	P 15
資料2 基本集計表	P 19

はじめに

今、学校全体で読書に取り組むことが求められている。

平成 15 年 8 月、文化審議会の国語分科会読書活動等小委員会は、若いうちに読書の習慣を身に付けることの重要性を強調し、読書を国語科だけでなく、すべての教科で取り組むべきだとする内容の報告書をまとめた。また、教科外の活動においても「教師が常に付いた形での朝の 10 分間の読書を行えるよう工夫することが必要」と提言している。

静岡県教育委員会は「『人づくり』2010 プラン」で、読書活動は「感性を磨き、豊かな心を育て、思考力や表現力をはぐくむ上で大切」とし、2010 年には、高等学校の「朝読書等の実施率」を 100%にするという数値目標を掲げている。また、「確かな学力」育成会議は、平成 15 年 12 月、「静岡の子どもに『確かな学力』を」と題する中間報告をまとめ、その中で、感性を磨き、思考力や表現力をはぐくみ、学力を支える基盤となる読書活動の推進を、「読書のしずおか」づくりとして展開することを提言している。

朝読書は、「読書のしずおか」づくりの鍵と考える。朝読書として教師と生徒が読書に取り組むことにより、学校全体の読書活動が活発になり、保護者等を巻き込む読書活動となって広がる。静岡県の高等学校の朝読書の実態を整理、紹介し、各学校が他の実践を参考にするにより、県下の朝読書がさらに充実し、「読書のしずおか」づくりが推進されることを期待している。

調査の方法

- 1 調査時期：平成 15 年 10 月
- 2 調査対象：県内の公立高等学校 106 校（129 課程：全日制課程 104、定時制課程 25）
- 3 調査方法：朝読書を担当している教員（各校 1 名）へのアンケート調査

本調査を通して分かったこと（概要）

本調査では、定時制課程の学校を考慮に入れ、学校において、時間を定め、集団で行う読書活動を「朝読書」とした。アンケート調査を集計し、分析した結果から分かったことを以下にまとめた。（詳しくは、「**アンケート集計結果及び分析**」参照）

1 朝読書の様子

（1）全日制課程の 73 校で朝読書を実施

全日制課程 104 校の朝読書の実施状況は、平成 15 年 10 月現在、「全校で実施している」学校が 60 校、「一部で実施している」学校が 13 校、「実施していない」学校が 31 校である。定時制課程 25 校は、朝読書を実施していない（表 1）。平成 13 年度以降、読書習慣を身に付けることの重要性が認識され、実施校が増加している（図 1）。

（2）さまざまな実施集団、実施頻度

実施集団、実施頻度は学校によりさまざまであり、「全校で毎日実施している」学校（46 校）、「全校で特定の曜日に実施している」学校（4 校）、「全校で不定期に実施している」学校（10 校）、学年単位や授業単位など「一部で実施している」学校（13 校）がある（図 2）（表 2）。

「全校で毎日実施している」学校の多くは、時間割の中に組み込まれた朝の10～15分間を朝読書にあてている。「全校で特定の曜日に実施している」学校では、朝の5～10分間を朝読書にあてている学校だけでなく、進学補習等と組み合わせ30分間をあてている学校も見られる。「全校で不定期に実施している」学校では、読書週間を設けたり、特別時間割の中に朝読書を組み込んだりしており、時間は10分間が多い。「一部で実施している」学校のうち学年単位で実施している学校は、朝のSHR開始前等の時間を利用して5～15分間実施している。

(3) 担当の多くは図書課

朝読書を「全校で実施している」学校の多くは、図書課が担当しているが、それぞれの学年が担当している学校も目立つ。「一部で実施している」学校では、実施している学年や教科が担当している。また、担当する組織が新たにつくられた学校もある(表3)。

(4) 共通理解に基づいた指導

朝読書の時間に関する指導のとりきめは、「ある」「およそ共通したルールで行われている」学校が95%であり、共通理解に基づいて指導していることがうかがわれる(図4)。指導のとりきめや共通したルールとして、「教師が教室にいる」「生徒を静かにさせる」ことについては「必ず」と回答した学校が多い(図5、図8)。「生徒に本を開かせる」ことについては、「必ず開かせる」「できるだけ開かせる」が多く、読書に親しむ雰囲気も大切にしていることがうかがわれる(図7)。「教師も本を読む」ことについては、「全校で実施している」学校で、「必ず」「読むようにしている」と回答した学校が多いが、「一部で実施している」学校では、「教師の判断に任せられている」と回答した学校が目立つ(図6)。「全校で実施している」学校は、「教師が本を読む姿勢を示す」ことを指導として意識していることがうかがわれる。

読む本の種類のとりきめは、「除外する本の種類のとりきめをしている」学校がほとんどである(表4)。生徒への本の紹介についてのとりきめは特になく、担当する教師に任せられていることから、教師自身の読書の質の向上も望まれる結果となっている(図9)。生徒が読んでいる本の把握は、「机間巡視」や「書名を書かせる」などを通してほとんどの学校で行われている(図10)。

(5) 朝読書に対する生徒の姿勢は概ね良好

朝読書に対する生徒の姿勢は、80%強の学校が「ほとんどの生徒は指導しなくても本を開いている」「ほとんどの生徒は指導しなくても静かである」と回答し、概ね良好であることが分かる(図11、図12)。一方、読書意欲の低い生徒への指導を課題としている学校も見られる。

「教師が読んでほしいと期待している本」を、31%の学校は「だいたい読んでいる」が、65%の学校は「読んでいる生徒もいる」と回答している(図13)。今後、読書の質の向上が望まれる結果となっている。また、生徒は本の情報を、自分で得たり、生徒同士で交換しあったりしている。教師の影響もかなり大きい(図14)。

2 朝読書のねらいと成果

(1) 目的は「読書に親しむ」「静かに一日を始める」「学力をつける」「心の教育」

「朝読書」の目的は、概ね「読書に親しむ」「静かに一日を始める」「学力をつける」「心の教育のため」「遅刻を防止する」「その他」の六つに分類される。「読書に親しむ」を挙げた学校が51校と最も多かったが、「静かに一日を始める」など、生活面や心の落ち着きを重視している学校や、学力向上を期待している学校も多く見られる(図3)。

また、朝読書を「毎日実施している」学校は、「読書に親しむ」「静かに一日を始める」を多く挙げており、読書によって生じる「静かな時間」の教育効果を期待している。

(2) 生徒に表れている成果は生活面、読書面

生徒に表れた成果については、「朝のSHRが静かになった」などの生活面や「朝読書以外でも本を読むようになった」の読書面を挙げた学校が多い。一方、読書を通しての学力面や心の教育の面では、成果が表れたと回答した学校が少ない(図15)。これは、効果が表れるのに時間がかかること、効果が外から見えにくいことなども理由と考えられる。

実施頻度との関連では、「朝のSHRが静かになった」「朝読書以外でも本を読むようになった」については、「毎日実施している」学校に多く成果が表れた(図16、17)。毎日実施することで、「静かに一日を始める」ことが習慣化し、「読書に親しむ」生徒が増えることがうかがえる結果となっている。目的との関連では、朝読書の目的が成果として表れていない学校も見られる。成果に結びつくには時間がかかることから、継続した指導が望まれる。

教師に表れた成果については、教師自身の読書や教師間のコミュニケーション、生徒とのかわりの面での成果が挙げられている(図18)。朝読書が生徒だけでなく教師にもよい成果をもたらしていることがうかがわれる。

3 朝読書の課題と展望

(1) 課題は「時間の確保」「教師の共通理解」「生徒の指導」

74%の学校が、朝読書についての課題を挙げている。その内容は、「時間の確保にかかわるもの」「教師の共通理解にかかわるもの」「生徒の指導にかかわるもの」に大別される(表5)。

「時間の確保にかかわるもの」では、「全校で毎日実施している」学校は、「朝の日程が窮屈」「他の活動ができない」を挙げ、「全校で毎日実施している」以外の学校は、毎日実施するための朝読書の時間を確保できないことを挙げている。「教師の共通理解にかかわるもの」では、朝読書についての共通理解の難しさを挙げている。「生徒の指導にかかわるもの」では、読書指導の充実や、読書意欲の低い生徒への指導の難しさを挙げている。

(2) 朝読書の充実のために(担当組織の支援と効果的な指導方法)

朝読書を担当している組織では、朝読書の充実のための支援をしている。「生徒を直接支援すること」としては、学級文庫等の設置や推薦図書の選定による本の紹介など、生徒が読書に親しむための支援が多く見られる(表6)。「教師の指導を支援すること」としては、「朝読書の理解を深めるための支援」「指導力を高めるための支援」「朝読書の実態の把握」「指導法の確認」についての具体的な取組が挙げられている(表7、表8)。

他校に紹介したい効果的な指導方法としては、読書意欲の低い生徒へのねばり強い指導や、読書に興味をもたせる指導、生徒に合った指導をするための実態把握の方法などが挙げられた。新しい特別な指導方法というよりは、生徒への地道な指導の継続や、それを支える教師の姿勢が大切であることが分かる結果となった(表9)。

アンケート集計結果及び分析

1 朝読書の実施状況

(1) 実施の有無と実施集団

表1は、朝読書の実施の有無と実施集団をまとめたものである。

全日制課程 104 校のうち、「全校で実施している」学校は 60 校、「一部で実施している」学校は 13 校、「実施していない」学校は 31 校であった。「一部で実施している」学校は、学年単位が 12 校、授業単位が 1 校であった。

定時制課程は、25 校すべてが「実施していない」と回答した。

朝読書の実施の有無と実施集団（表1）

	全校で実施している	一部で実施している	実施していない	計
全日制課程	60校	13校	31校	104校
定時制課程	0校	0校	25校	25校

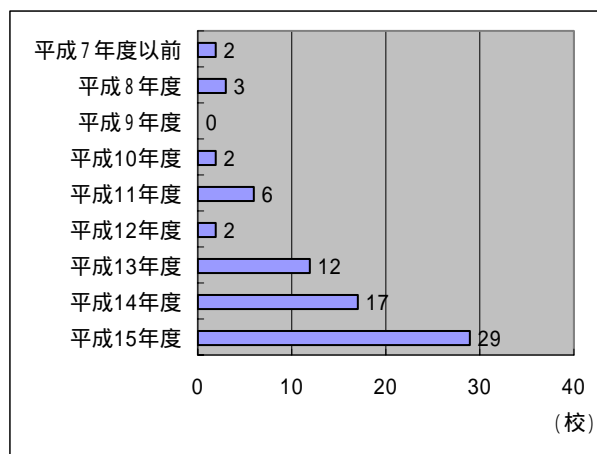
(2) 実施開始年度

図1は、現在実施している 73 校に対して「朝読書をいつから実施しているか」の問いに対する回答をまとめたものである。平成 13 年度以降、朝読書を始めた学校が増えてきている。

なお、「実施していない」と回答した全日制課程 31 校のうち、5 校が 16 年度から全校実施、3 校が実施を検討中としている。

また、定時制課程 25 校ではいずれも全校実施の予定はないと回答し、そのうち 17 校が、時間確保が難しいことを理由に挙げた。

実施開始年度（図1）



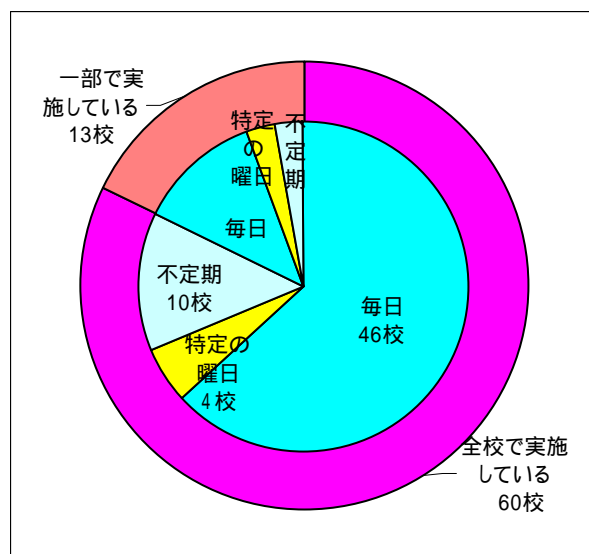
(3) 実施集団と実施頻度

図2は、現在朝読書を実施している 73 校について、その実施状況を、実施集団と実施頻度をもとにまとめたものである。

実施頻度については、全校実施、一部実施とも、毎日実施している学校が中心となっている。

「全校で実施している」学校について見ると、「毎日実施している」学校の多くが、時間割の中に組み込まれた朝の 10～15 分間を朝読書にあてている。「特定の曜日に実施している」学校では、朝の 5～10 分間を朝読書にあてている学校だけでなく、進学補習等と組み合わせ 30 分間をあてている学校も見られる。「不定期に実施している」学校では、読書週間を設けたり、学期末の特別時間割の

朝読書の実施集団と実施頻度（図2）



中に朝読書を組み込んだりしている。時間は10分間が多いが、面接週間の待ち時間に読書タイムを設けている学校もある。

「一部で実施している」学校の実施状況について整理したのが、表2である。

学年単位で実施している学校は、1年が8校、1、2年が3校、3年が1校である。

「学年単位で毎日実施している」学校は、朝の10分間を朝読書の時間にあてている。「学年単位で特定の曜日に実施している」学校、「学年単位で不定期に実施している」学校は、SHR開始前等の時間、時差登校の時間を利用して、いずれも朝の5～15分間で実施している。

「授業単位で毎日実施している」学校は、1学年の国語総合の時間に、国語力向上のために毎時間10分実施している。

一部で実施している学校の実施状況（表2）

	毎日実施している	特定の曜日に実施している	不定期に実施している	計
学年単位	8校	2校	2校	12校
授業単位	1校	0校	0校	1校
計	9校	2校	2校	13校

以下については、全日制課程のうち、朝読書を実施している学校73校についての結果である。

2 朝読書の目的

図3は、複数回答可として自由に記述してもらった朝読書の目的を、内容別に図中の六つに分類し、実施頻度をもとにまとめた結果である。

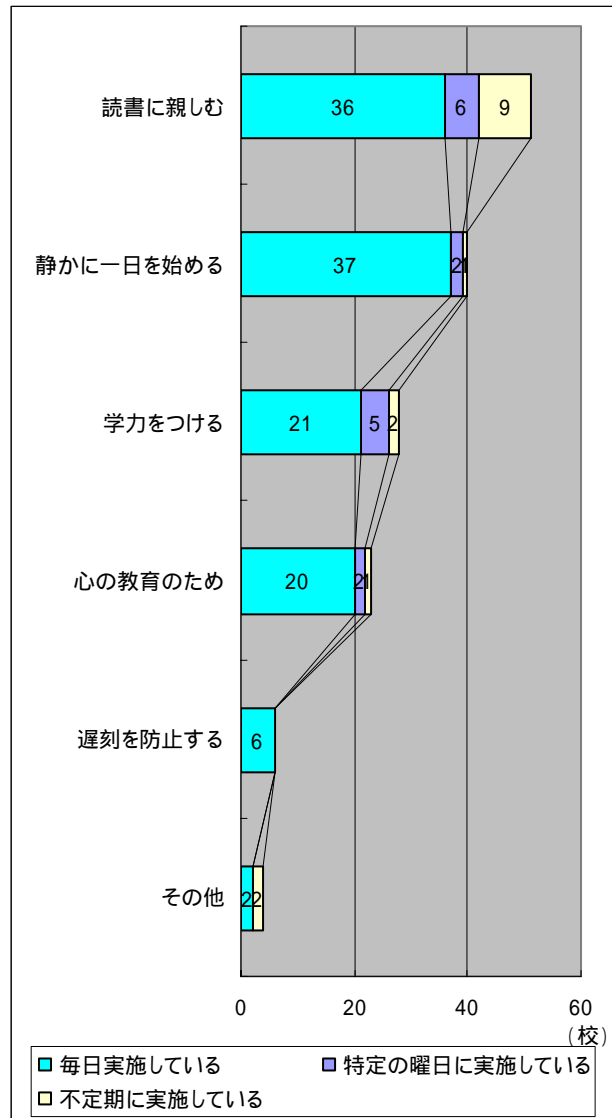
回答数としては、朝読書を実施している学校73校から、計152の目的の回答があった。無回答が4校、目的を一つだけ記述した学校が21校であり、残りの48校が、複数回答している。2項目を挙げた学校が24校で最も多く、中には6項目挙げた学校もあった。

内容別には、「読書に親しむ」と回答した学校が最も多かったが、「静かに一日を始める」など、生活面や心の落ち着きを重視する回答や、学力向上を期待する回答も多くみられた。

目的を実施頻度別に見ると、「毎日実施している」学校（55校）では、「静かに一日を始める」「読書に親しむ」の二つが中心となっている。「特定の曜日に実施している」学校（6校）では、すべてが「読書に親しむ」を挙げ、5校が「学力をつける」を挙げている。「不定期に実施している」学校（12校）では、「読書に親しむ」が中心となっている。

実施頻度にかかわらず、多くの学校が、読書に親しむ、つまり読書習慣の確立を目的としていることが指摘できる。また、「毎日実施している」学校が、他の実施形態に比べ、「静かに一日を始める」が多いのは、読書によって生じる「静かな時間」が生徒にもたらすものを重視しているためと考えられる。

朝読書の目的（複数回答可）（図3）



3 朝読書を担当する組織

朝読書を担当している組織については、実施集団とのかかわりが深い。表3は、実施集団別に担当組織を示したものである。

「全校で実施している」学校の多くは、図書課が担当しているが、それぞれの学年が担当している学校も7校ある。

「一部で実施している」学校では、学年単位、授業単位により、それぞれの実施部署である学年、教科が担当している。

また、担当する組織が新たに作られた学校も、全部で4校あった。

朝読書を担当する組織（表3）

	図書課	学年	国語科	新しく作った組織	その他	計
全校で実施している	48校	7校	0校	3校	2校	60校
一部で実施している	2校	7校	1校	1校	2校	13校
計	50校	14校	1校	4校	4校	73校

4 朝読書の指導方法

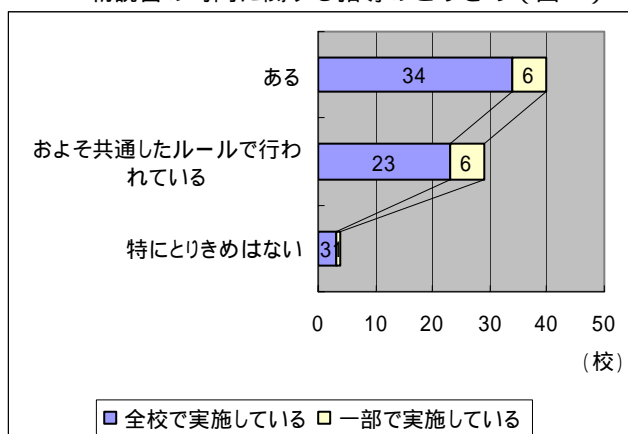
(1) 朝読書の時間に関する指導のとりきめ

図4は、実施集団と、朝読書の時間に関する指導のとりきめの有無との関係をまとめたものである。

実施集団にかかわらずほとんどの学校が、指導のとりきめが「ある」「とりきめはないが、およそ共通したルールで行われている」と回答している。全職員で足並みをそろえる必要があると考えているためと思われる。

朝読書の指導のとりきめについて、「ある」「とりきめはないがおよそ共通したルールで行われている」学校69校に、以下のア～エについて尋ねた。

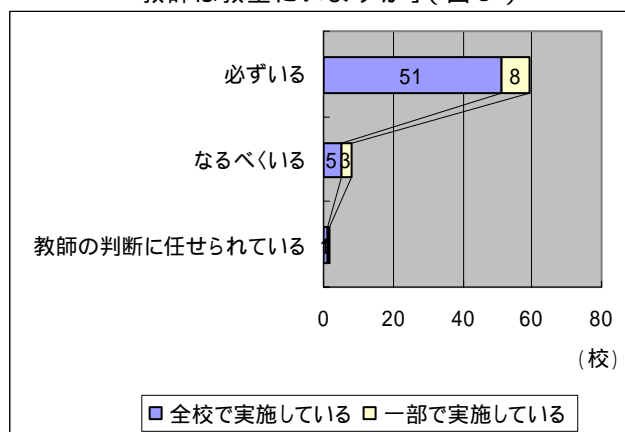
朝読書の時間に関する指導のとりきめ（図4）



ア 「教師は教室にいますか」

図5は、この質問に対する結果をまとめたものである。「必ずいる」「なるべくいる」と回答した学校が大部分であり、「教師の判断に任せられている」と回答した学校は2校であった。この2校は、朝読書の時間が、時間割の中に確保されていない学校であった。

「教師は教室にいますか」（図5）

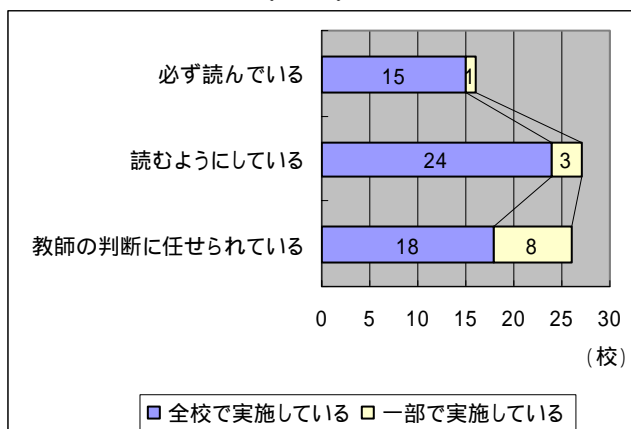


イ 「教師は生徒と同じように本を読んでいますか」

図6は、この質問に対する結果をまとめたものである。「全校で実施している」学校では、「必ず読んでいる」「読むようにしている」と回答した学校が多い。「一部で実施している」学校では、「教師の判断に任せられている」と回答した学校が目立つ。

「教師が本を読む姿勢を示す」ことを、指導としてどこまで意識しているかを、うかがうことができる。

「教師は生徒と同じように本を読んでいますか」
(図6)



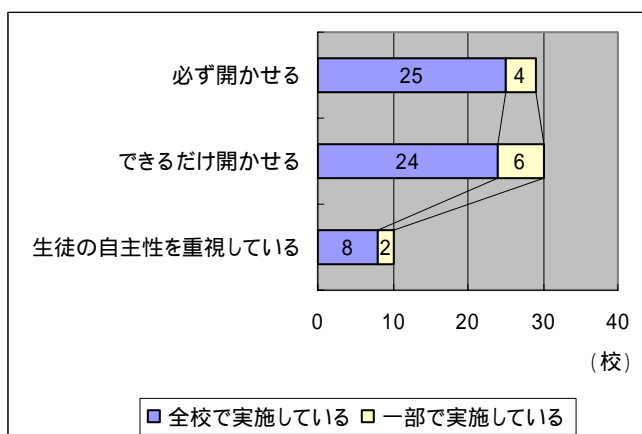
ウ 「教師は生徒に本を開かせますか」

図7は、この質問に対する結果をまとめたものである。「必ず開かせる」「できるだけ開かせる」と回答した学校が多い。

「生徒の自主性を重視している」と回答した10校のうち半数は、生徒の様子を尋ねる質問に対して、「ほとんどの生徒は指導しなくても本を開いている」と回答していて、生徒の自主性に期待して、一定の成果を上げていることがうかがわれる。しかし、残り半数は、自主性を重視するといっても「ほとんどの生徒は指導しないと本を開かない」「指導しても本を開かない生徒がいる」と回答しており、朝読書の指導の難しさがうかがわれる。

また、「できるだけ」という回答が多いのは、一律に強制するのではなく、読書に親しむ雰囲気大切にしているためと推測される。

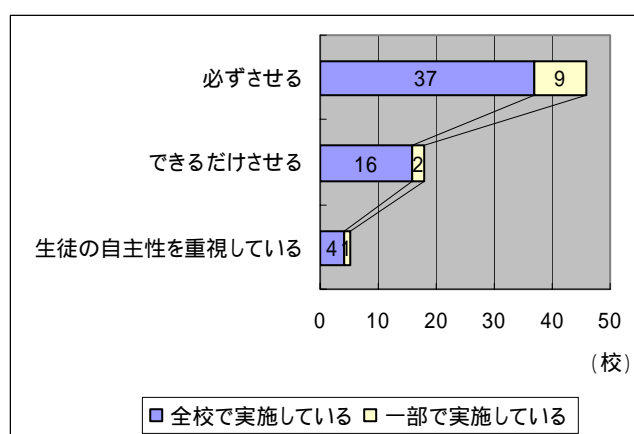
「教師は生徒に本を開かせますか」(図7)



エ 「教師は生徒を静かにさせていますか」

図8は、この質問に対する結果をまとめたものである。「必ずさせる」「できるだけさせる」と回答した学校がほとんどである。また、「生徒の自主性を重視している」と回答した学校のうち、4校は「指導しなくても静かである」と回答している。

「教師は生徒を静かにさせていますか」(図8)



(2) 朝読書の時間に読む本の種類のとりきめ

表4は、朝読書の時間に読む本の種類のとりきめについてまとめたものである。

「除外する本の種類のとりきめがある」と回答した学校は70校に上っている。「除外する本」として、ほとんどすべての学校で、漫画、雑誌を挙げており、これに、教科書や参考書、写真集、ゲーム本を加えている学校が見られる。

「本の種類のとりきめがある」と回答した学校は、指定図書や教師が用意した本を読ませている。

読む本の種類のとりきめ(表4)

本の種類のとりきめがある	2校
除外する本のとりきめがある	70校
ない	1校

(3) 本の紹介と生徒が読んでいる本の把握

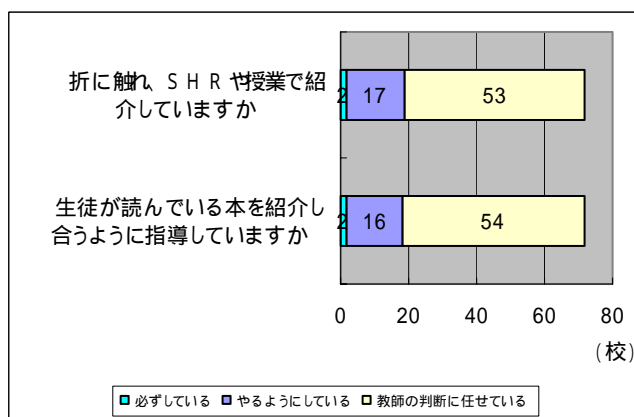
生徒への本の紹介については、図9中の2項目に対する選択肢(「必ずしている」「やるようにしている」「教師の判断に任せている」と、自由記述(その他行っていること)によって調査した。

図9によると、の質問とも、「教師の判断に任せている」が多い。本の紹介についてのとりきめは特になく、担当する教師に任せられているのが、現状であるといえる。

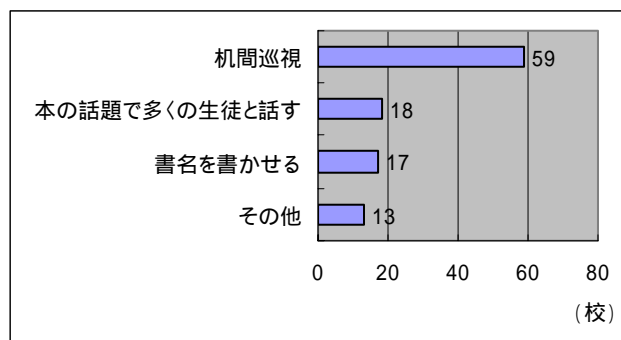
「その他行っていること」の自由記述では46校から回答があった。「図書館だより」「図書委員会だより」等での紹介を挙げた学校が32校と多かった。「ポスター」「放送」「図書館での本の展示」等図書館で行っているもの、「国語科としてすすめたい本の紹介」等国語科で行っているもの、「LHRのブックトーク」等学級で行っているものが挙げられた。

図10は、「教師はどのように生徒の読んでいる本を把握しているか」について、複数回答可として、質問した結果をまとめたものである。朝読書を実施している73校のうち、69校が、図10に見られるいずれかのかたちで、生徒の読む本を把握している。「机間巡視」による把握が最も多いが、「書名を書かせる」を挙げた17校以外に、7校がその中で「アンケートやカードへの記入」を挙げており、合計24校が書名を書かせていることが分かる。

生徒に対する本の紹介(図9)



生徒が読んでいる本の把握(図10)



5 朝読書に対する生徒の姿勢

まず、朝読書の時間における生徒の様子に関して、

- ・ 「ほとんどの生徒は指導しなくても本を開いている」か、
- ・ 「ほとんどの生徒は指導しなくても静かである」か
- ・ 「生徒は、教師が読んでほしいと期待している本を読んでいる」か

について質問した。図 11、12、13 は、それぞれの結果をまとめたものである。

全体として「指導しなくても本を開いている」と回答した学校が多い。ただその一方で、「ほとんどの生徒が『指導しないと本を開かない』」と回答した学校 12 校のうち、「指導しても本を開かない生徒がいる」学校が 10 校ある。実施の困難さの一端がうかがわれる。

「静かである」かどうかについても同様の結果が見てとれる。多くの学校が「指導しなくても静かである」と回答している一方で、「ほとんどの生徒が『指導しないと静かにならない』」と回答した学校 14 校のうち、「指導しても静かにならない生徒がいる」と回答した学校が 7 校あった。

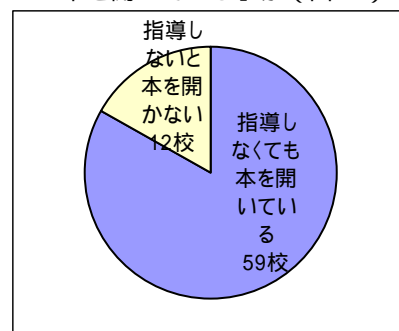
期待している本を読んでいるかどうかについては、「だいたい読んでいる」と回答した学校が 24 校あるのに対し、「読んでいる生徒もいる」と回答した学校が 45 校あった。今後、読書の質の向上が望まれる結果となっている。

次に、「生徒はどのように情報を得て本を選んでいるか」について、図 14 中の ~ の 4 項目に対する選択肢（「よくある」「たまにある」「あまりない」と、自由記述（どのように情報を選んでいるか）によって調査した。

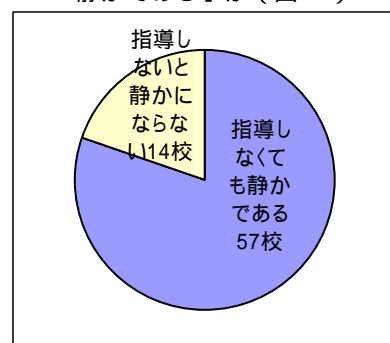
図 14 によると、「自分で」「生徒同士」という項目の頻度は比較的高い。生徒は自分で本を捜すだけでなく、お互いに情報を交換していることがわかる。集団で読書することによる効果の一つといえるだろう。ただし、「よくある」「たまにある」を併せると、「教師から」の回答も多く、教師の影響の大きさもうかがうことができる。

~ 以外の自由記述では、12 校から回答があり、「図書館でのレファレンス」「学級文庫」「図書紹介」「家族から」などが挙げられた。

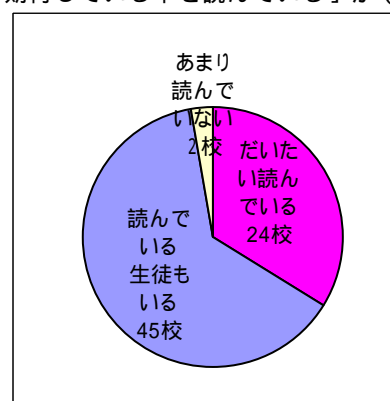
「本を開いている」か（図 11）



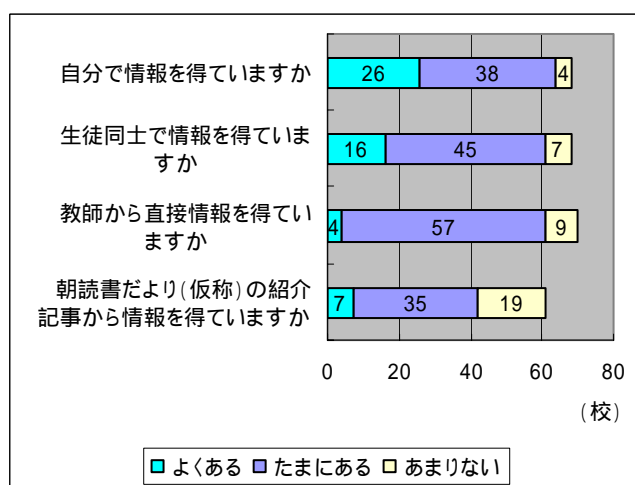
「静かである」か（図 12）



「期待している本を読んでいる」か（図 13）



「生徒はどのように情報を得て本を選んでいるか」（図 14）



6 朝読書の成果

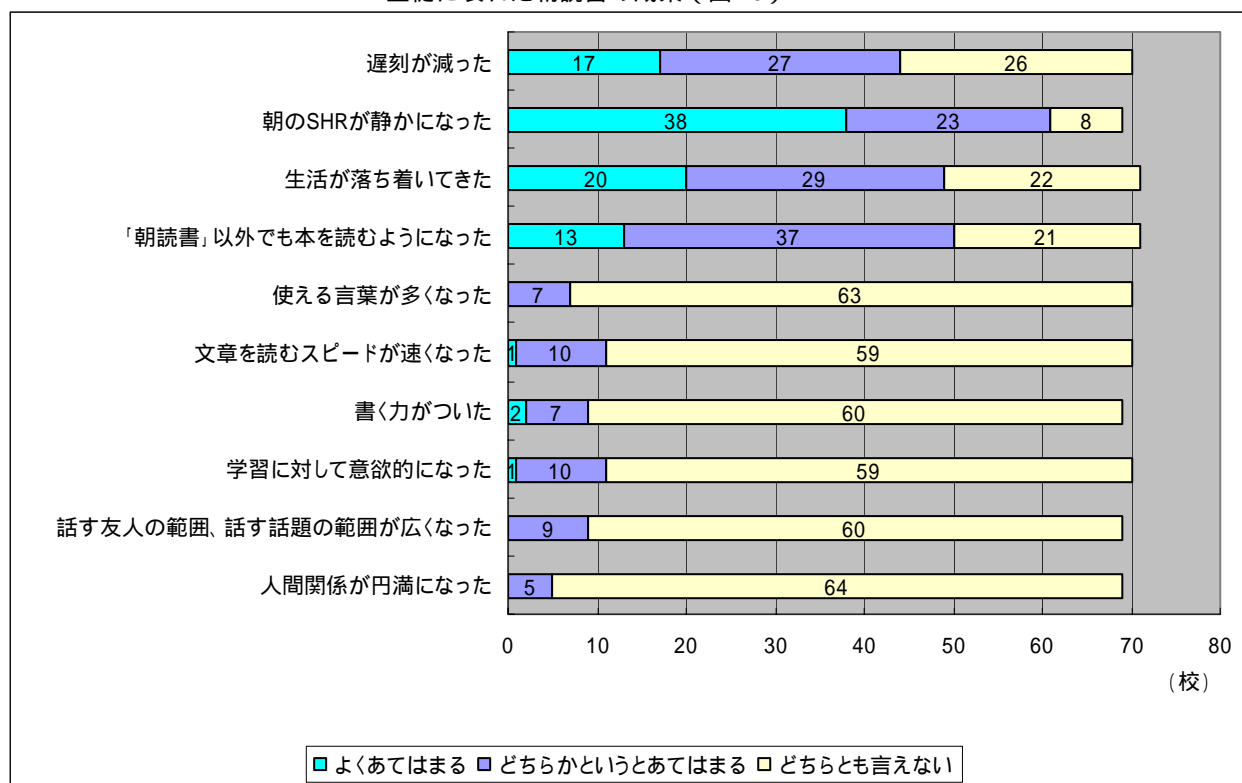
朝読書の成果について、生徒に表れた成果と、教師に表れた成果を回答してもらった。

(1) 生徒に表れた成果

生徒に表れた朝読書の成果については、図 15 の ~ の 10 項目に対する選択肢(「よくあてはまる」「どちらかというにあてはまる」「どちらとも言えない」と、自由記述(その他表れた成果)によって調査した。

図 15 によると、~ の生活に関する項目、及び ~ の読書そのものに関する項目については、「よくあてはまる」「どちらかというにあてはまる」を回答した学校が多く見られる。一方、~ のように、読書を通しての学力や心の教育の面での成果については「よくあてはまる」「どちらかというにあてはまる」を回答した学校は 10 校前後と少なくなっている。このことについては、実際の成果はさておき、学力や心の教育の面は、効果が表れるのに時間がかかることと、効果が外から見えにくいことなども、理由として考えられる。

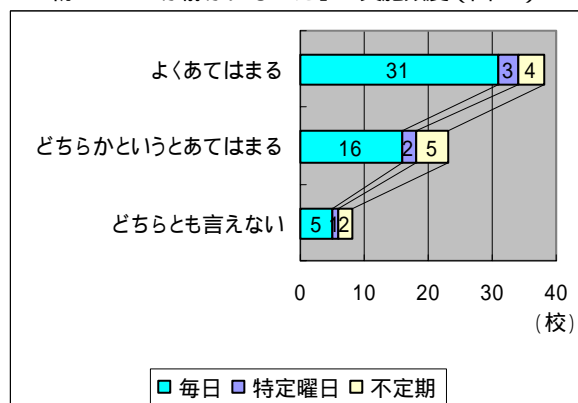
生徒に表れた朝読書の成果(図 15)



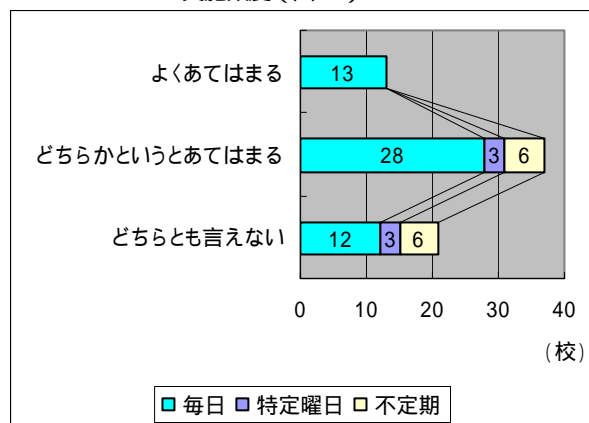
また、~ の項目と実施頻度との関連を調べると、~ の項目に特徴が見られた。図 16、17 は、それぞれ「朝のSHRが静かになった」

「朝読書以外でも本を読むようになった」の結果を実施頻度別にまとめたものである。

「朝のSHRが静かになった」と実施頻度(図 16)



「朝読書以外でも本を読むようになった」と
実施頻度（図 17）



「朝のSHRが静かになった」については、「毎日実施している」学校で「よくあてはまる」と回答した学校が多い。「朝読書以外でも本を読むようになった」については、「毎日実施している」学校だけが「よくあてはまる」と回答した。

毎日実施することで、「静かに一日を始める」ことが習慣化し、「読書に親しむ」生徒が増えることがうかがえる結果になっている。

また、P. 5で述べた朝読書の目的から～の項目の結果を分析すると次のことが分かった。

「読書に親しむ」を目的として挙げた51校については、「朝読書以外にも本を読むようになった」に対して、「よくあてはまる」が9校、「どちらかというあてはまる」が29校、「どちらとも言えない」が11校、無回答が2校であった。

「静かに一日を始める」を目的として挙げた40校については、「朝のSHRが静かになった」に対して、「よくあてはまる」が22校、「どちらかというあてはまる」が13校、「どちらとも言えない」が4校、無回答が1校であった。

「遅刻を防止する」を目的として挙げた6校については、「遅刻が減った」に対して、「よくあてはまる」が3校、「どちらかというあてはまる」が1校、「どちらとも言えない」が2校であった。

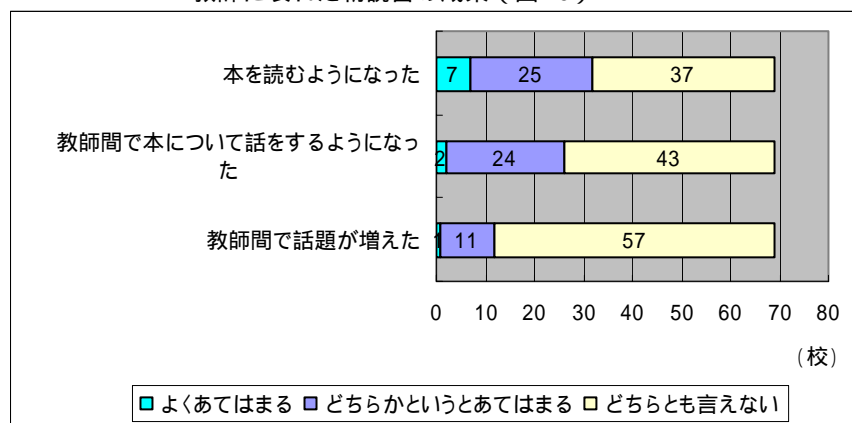
「学力をつける」を目的として挙げた28校のうち、「使える言葉が多くなった」「文章を読むスピードが速くなった」「書く力がついた」「学習に対して意欲的になった」の4項目に対して、「どちらかというあてはまる」と回答した数は、3項目を挙げた学校が1校、2項目を挙げた学校が5校、1項目を挙げた学校が2校であった。

「心の教育のため」を目的として挙げた23校のうち、「話す友人の範囲、話す話題の範囲が広がった」「人間関係が円満になった」の2項目に対して、「どちらかというあてはまる」と回答した数は、2項目を挙げた学校が2校、1項目を挙げた学校が2校であった。

やはりここでも、P. 10の成果と同様の結果がうかがわれる。

～ 以外に表れた成果についての自由記述では、17校から回答があった。「読書の楽しさを感じる生徒が増えた」「図書館の利用者や貸出数が増えた」など読書そのものに関する成果を挙げた学校が多く、「授業に落ち着きがでた」「着席の習慣がついた」などの生活面での成果を挙げた学校も見られた。また「活字への抵抗感がなくなった」「集中力がついた」などの成果も挙げられた。

教師に表れた朝読書の成果（図 18）



(2) 教師に表れた成果

教師に表れた朝読書の成果については、図 18の～の3項目に対する選択肢「よくあてはまる」「どちらかというあてはまる」「どちらとも言えない」と、自由記述(その他表れた成果)によって調査した。

図 18 を見ると、～ の項目に対して、「よくあてはまる」「どちらかというにあてはまる」と回答した学校がそれぞれ、32 校、26 校、12 校あった。

その他教師に表れた成果の自由記述では 7 校から回答があり、「副担任の生徒への関わりが増えた」「生徒との会話が增えた」などが挙げられた。

朝読書が生徒だけでなく、教師にもよい影響をもたらしていることがうかがわれる。

7 朝読書についての課題

実施集団、実施頻度と課題（表 5）

朝読書についての課題を自由に記述してもらったところ、朝読書を実施している 73 校のうち、54 校から延べ 63 の回答があった。挙げられた課題は、概ね「時間の確保にかかわるもの」（他の活動との競合も含む）、「教師の共通理解にかかわるもの」、「生徒の指導にかかわるもの」に分類され、その数はそれぞれ、22 校、22 校、19 校である。表 5 は、朝読書の実施集団、実施頻度と挙げられた課題との関係をまとめたものである。

	全校			全校	一部	計
	毎日	特定の曜日	不定期	小計		
時間の確保にかかわるもの	11 校	1 校	5 校	17 校	5 校	22 校
教師の共通理解にかかわるもの	18 校	0 校	2 校	20 校	2 校	22 校
生徒の指導にかかわるもの	15 校	2 校	0 校	17 校	2 校	19 校
計	44 校	3 校	7 校	54 校	9 校	63 校

「全校で実施している」学校では、「時間の確保」「教師の共通理解」「生徒の指導」の三つが挙げられ、「一部で実施している」学校では、「時間の確保」が多くなっている。

内容別に見ると、「時間の確保にかかわるもの」では、「全校で毎日実施している」学校のうち 9 校が「朝の日程が窮屈である」、2 校が「小テスト等を実施したい」を挙げ、時間帯として確保されていても、そのやりくりで苦労している様子がうかがわれる。一方、「全校で毎日実施している」以外の学校では、「毎日実施等朝読書の拡張をしたい」という回答が多く、時間の確保そのものの困難さがうかがわれる。

「教師の共通理解にかかわるもの」では、どの実施形態でも、朝読書についての共通理解を維持することの難しさを挙げている。

「生徒の指導にかかわるもの」では、どの実施形態でも、読書指導の充実や読書意欲の低い生徒への指導の難しさを挙げている。

8 朝読書の充実のために

(1) 朝読書を担当している組織の支援

「生徒を直接支援すること」(表 6)

本を身近に置く 学級文庫を設置している(39校) / ホールに朝読書用の本を備えている(1校) / 図書館に朝読書用のボックス等を設置している(2校)
生徒の興味をひく本をそろえる 生徒が希望する本を購入している(5校)
生徒に本を紹介する 推薦図書を選定している(19校) / 朝読書だより等を発行している(3校) / 生徒による本の紹介をしている(2校) ただし、この設問で回答している以外に、「生徒に対する本の紹介として行っているもの」を記述してもらった中に図書館で発行している広報誌を挙げた学校が32校あった
読書に興味をもたせる 読書会をしている(14校) / 読み聞かせをしている(3校) / ブックトークをしている(2校) / 図書館ラリー、紙芝居をしている(各1校)

朝読書を担当している組織が、「朝読書」の充実のために行っていることを、「生徒を直接支援すること」「教師の指導を支援すること」の観点から自由に記述してもらった。

表6は、「生徒を直接支援すること」として挙げられたものの一覧である。朝読書を実施している73校中63校から回答があった。

学級文庫等の設置や推薦図書を選定による本の紹介、読書会の実施などさまざまな工夫を通して本に親しませ、読書指導の充実や読書意欲の向上を図ろうとする取組がなされている。

次に、表7、表8は、「教師の指導を支援すること」として挙げられたものの一覧である。「読書活動を充実させるために」「読書活動を継続させるために」の各々に対して、朝読書を実施している73校中それぞれ18校、33校から回答があった。

「教師の指導を支援すること」読書活動を充実させるために(表7)

朝読書の理解を深めるための支援
講演会を実施した(3校) / 「朝の読書」に関する本を配布している(2校) / 「朝の読書」に関する本を紹介している(1校)
指導力を高めるための支援
指導法の資料を配布している(5校) / 指導方針の説明をしている(2校) / 職員向けニュースを発行している(1校) / 相談窓口を明確にしている(1校)
実態の把握
アンケートを実施している(2校)
その他
継続を目的とするため、負荷をかけないようにしている(1校)

「教師の指導を支援すること」読書活動を継続させるために(表8)

実態の把握
アンケートを実施している(25校)
指導法の確認
指導方針を説明している(9校)
その他
職員間で協力し合う(1校)

「読書活動を充実させるために」では、「朝読書の理解を深めるための支援」「指導力を高めるための支援」「実態の把握」についての具体的な取組が挙げられた。また、「読書活動を継続させるために」では、「実態の把握」のためのアンケートの実施や、「指導法の確認」が挙げられた。

(2) 朝読書の効果的な指導法

表9は、「朝読書の効果的な指導方法として、紹介したいというもの」についての記述を一覧にしたものである。朝読書を実施している73校中8校から回答があった。

「朝読書の効果的な指導方法」(表9)

読書指導
本を用意するなどし、読まない生徒に何らかの指導をする(2校) / 教師が折に触れて本を紹介する(1校) / 教師も読書を楽しんでいる姿勢を示す(1校)
読書に興味をもたせる
読み聞かせをする(2校) / ブックガイド、ブックエッセイをする(1校)
実態を把握する
司書教諭が廊下をまわり実態の把握、支援等をする(1校)
その他
全校で実施する(1校) / 継続する(1校)

効果があり他校に紹介したい指導方法として挙げられたものは、新しい特別な指導方法というよりは、生徒への地道な指導の継続や、それを支える教師の姿勢であることが分かる結果となっている。

まとめに代えて－「読書のしずおか」づくりを目標として－

本アンケートを集計、分析した結果、多くの学校で朝読書を実施し、成果が表れているとともに、課題があることも分かってきた。特に自由記述からは、朝の慌ただしさ、教師の共通理解を維持することの難しさ、本に興味のない生徒への指導の難しさが伝わってきた。

朝読書の課題の根本は、教師自身の中にあると考えられる。読書習慣を身に付けることの重要性については共通理解をもつことができるが、その方法については多くの考え方があるからである。例えば「読書のように感性にかかわる活動については、一律に強制する方法はそぐわない」とする、朝読書自体に対する異論もあるし、「読書に親しむ雰囲気大切にしたい」とする、強制的な指導に対する抵抗感もある。

朝読書は、一律に強制しないで読書に親しむ指導ができる時間であると考えられる。生徒は、読書の時間が与えられるが、評価されることはない。教師がねばり強く指導していくうちに、生徒が自分に合った本に出会うことができれば、後は友人、学級、学校という集団の力を借りて、生徒は本に親しんでいく。朝読書は、読書が校内で認知され、生徒同士で本を紹介するようになるなど、多くの可能性をもった読書活動である。

生徒の興味関心意欲はさまざまである。こうした多様な生徒一人一人の心に響く指導は、それぞれ個性をもった多くの教師によって、はじめてできるものである。高校生は強制されることを嫌う。したがって、教師が折りに触れて本を紹介したり、読書を楽しんでいる姿勢を示したりする自然な姿が、重要な指導となる。

私は、本調査を通して、すぐに朝読書の充実につながる画期的な指導法を、紹介することができるのではないかと考えていた。私自身、生徒が指導に乗らなかったり、成果が表れなかったりするのには、自分の指導が行き届かないためであり、もっとよい指導法があると思っていたからである。機械がうまく動かないのはマニュアル通りに操作していないためであり、朝読書の指導法も同じようにとらえていたのである。しかし、朝読書をするのは生徒と教師である。指導はマニュアルだけでは成立しない。指導法はあくまで指導法であり、一人一人の教師が、その生徒にあった指導法を選ぶための、いわば指導事例の一つである。

朝読書の効果的指導法として「続けること」という回答があった。読書習慣を身に付けるという、長い時間のかかる教育活動には、生徒の可能性を信じ、朝読書の可能性を信じ、教師集団の可能性を信じ、各学校が共に朝読書を続けていくことが大切である。それが、私たちができる「読書のしずおか」づくりではないかと思う。

末筆になりましたが、調査に協力してくださった先生方、訪問に応じてくださった学校に、心から感謝いたします。

参考文献・参考資料

著者名	書名	発行所	発行年
ジム・トレリス	読み聞かせ この素晴らしい世界	高文研	1987
船橋学園読書教育研究会	朝の読書が奇跡を生んだ	高文研	1993
林 公	朝の読書 実践ハンドブック	メディアパル	1997
林 公	心を育てる朝の読書	教育開発研究所	1999
全国学校図書館協議会必 読図書委員会	六訂 何をどう読ませるか 第5群 高等学校	全国図書館協議会	2000
朝の読書推進協議会	朝の読書 46校の奇跡	メディアパル	2001
齋藤 孝	読書力	岩波書店	2002
河村 茂雄	教師のためのソーシャル・スキル	誠信書房	2002
中央教育審議会答申「新しい時代における教養教育の在り方について」(2002年2月)			
静岡県教育計画「人づくり」2010プラン(2002年9月)			
文化審議会国語分科会読書活動等小委員会の意見のまとめ(2003年8月)			
静岡県子ども読書活動推進会議報告「静岡県子ども読書活動推進計画について」(2003年10月)			
「確かな学力」育成会議中間報告「静岡の子どもに『確かな学力』を」(2003年12月)			

- 7 「朝読書」の時間の生徒の様子について、おたずねします。(1)(2)の についてあてはまるものを選んでください。また **でイと回答した学校は、 にお答えください。**
- (1) ほとんどの生徒は ア 指導しなくても本を開いている
イ 指導しないと本を開かない
指導しても本を開かない生徒は ア いる イ いない
- (2) ほとんどの生徒は ア 指導しなくても静かである
イ 指導しないと静かにならない
指導をしても静かにならない生徒は ア いる イ いない
- 8 「朝読書」の時間に読む本の種類(雑誌、漫画等)のとりきめについて、あてはまるものを選び、内容をお書きください。
ア 本の種類のとりきめがある ()
イ 除外する本の種類のとりきめがある ()以外
ウ ない
- 9 生徒は、教師が読んでほしいと期待している本を読んでいますか。あてはまるものを選んでください。
ア だいたい読んでいる イ 読んでいる生徒もいる ウ あまり読んでいない
- 10 生徒に対する本の紹介はどのようにしているか、おたずねします。
折に触れ、SHR や授業で紹介していますか。
ア 必ずしている イ やるようにしている ウ 教師の判断に任せている
生徒が読んでいる本を紹介し合うよう指導をしていますか。
ア 必ずしている イ やるようにしている ウ 教師の判断に任せている
その他行っていることがありましたら、お書きください。
(例 朝読書だより(仮称)で紹介している)
- 11 生徒はどのように情報を得て本を選んでいるか、おたずねします。
自分で情報を得ていますか。 ア よくある イ たまにある ウ あまりない
生徒同士で情報を得ていますか。
ア よくある イ たまにある ウ あまりない
教師から直接情報を得ていますか。
ア よくある イ たまにある ウ あまりない
朝読書だより(仮称)の紹介記事から情報を得ていますか。
ア よくある イ たまにある ウ あまりない
その他の場合がありましたら、お書きください。
- 12 教師はどのように生徒の読んでいる本を把握しているか、おたずねします。あてはまるものをすべて選んでください。
ア 机間巡視 イ 本の話題で多くの生徒と話す ウ 書名を書かせる
エ その他行っていることがありましたら、お書きください。
- 13 「朝読書」を中心となって行っている組織をお答えください。なおエ、オと回答した学校は、内容もお書きください。
ア 図書課 イ 国語科 ウ 学年
エ 新しく作った組織 () オ その他 ()
- 14 13の組織で「朝読書」の充実のため、行っていることをお答えください。
(1) 生徒を直接支援すること (学級文庫の設置、推薦図書を選定、読書会等)
(2) 教師の指導を支援すること
読書活動を充実させるために (読書指導法研修等)
読書活動を継続させるために (転入職員朝読書ガイダンス、アンケート調査等)
- 15 生徒にあらわれた「朝読書」の成果についておたずねします。 ~ についてあてはまるものを選んでください。

遅刻が減った。

ア よくあてはまる イ どちらかというにあてはまる ウ どちらとも言えない
朝の SHR が静かになった。

ア よくあてはまる イ どちらかというにあてはまる ウ どちらとも言えない
生活が落ち着いてきた。

ア よくあてはまる イ どちらかというにあてはまる ウ どちらとも言えない
「朝読書」以外でも本を読むようになった。

ア よくあてはまる イ どちらかというにあてはまる ウ どちらとも言えない
使える言葉が多くなった。

ア よくあてはまる イ どちらかというにあてはまる ウ どちらとも言えない
文章を読むスピードが速くなった。

ア よくあてはまる イ どちらかというにあてはまる ウ どちらとも言えない
書く力がついた。

ア よくあてはまる イ どちらかというにあてはまる ウ どちらとも言えない
学習に対して意欲的になった。

ア よくあてはまる イ どちらかというにあてはまる ウ どちらとも言えない
話す友人の範囲、話す話題の範囲が広がった。

ア よくあてはまる イ どちらかというにあてはまる ウ どちらとも言えない
人間関係が円満になった。

ア よくあてはまる イ どちらかというにあてはまる ウ どちらとも言えない
その他あらわれた成果がありましたら、お書きください。

16 成果を期待していたのにあらわれなかったことがありましたら、お書きください。

17 教師にあらわれた「朝読書」の成果についておたずねします。 ~ についてあてはまるものを選んでください。

本を読むようになった。

ア よくあてはまる イ どちらかというにあてはまる ウ どちらとも言えない
教師間で本について話をするようになった。

ア よくあてはまる イ どちらかというにあてはまる ウ どちらとも言えない
教師間で話題が増えた。

ア よくあてはまる イ どちらかというにあてはまる ウ どちらとも言えない
その他あらわれた成果がありましたら、お書きください。

18 「朝読書」の効果的な指導法として、紹介したいというものなどがありましたら、お書きください。

19 「朝読書」について課題がありましたらお書きください。

20 本調査について、御意見、御要望がありましたら、お書きください。

1でイ、ウと回答した学校におたずねします。

21 全校実施する予定はありますか。あてはまるものを選び、理由がありましたらお書きください。

ア はい イ いいえ 理由()

22 21でアと回答した学校におたずねします。

ア いつからの実施予定ですか。(平成 年 月から実施予定)

イ 実施する上で、課題とされていることがありましたらお書きください。

以上で終わりです。御協力ありがとうございました。